

同僚性や協働性を高める学年経営

—ミドルリーダーの立場から行う「学年マネジメントプログラム」の実践を通して—

長期研修員 矢島 敏明

現状

教員

- 生徒の変化への対応の遅れ
- 教師間の連携不足による同僚性や協働性の弱さ



生徒

- 自分や相手のよさに気付かない
- 自分に自信が持てない
- 他人を思いやれない



研究の背景

- ◆中央教育審議会答申
- 教員の資質向上を目指す
- 教員が組織的で効果的な対応を行う必要
- 生徒の人間関係の形成が困難な状況



教員

同僚性や協働性の向上



互いに認め合う学級集団づくり

生徒



人間関係づくりが必要である

実践1

学年職員へのアプローチ

- ①客観的な資料をもとにした学年会議
 - ・Q-U,C&Sのアンケート
 - ・学級分析シート, 解決策評価シート
- ②資質向上の研修

めあて

新しい視点からの実態把握

意思統一された連携の強化

学級経営の見直し

実践2

生徒へのアプローチ

- ①自他を認め合うトレーニング
- ②学校行事の場面での実践

めあて

人間関係づくりのスキル学習

学んだスキルを実践で活かす

学年マネジメントプログラム



なぜ、ミドルリーダーか？

ミドルリーダーが行う学年経営

学年全体で学級経営を充実させる

学年主任が各担任をリードする

研究のねらい

学年主任がミドルリーダーの立場から、学年職員と生徒の両方にアプローチする「学年マネジメントプログラム」の実践を通して、互いに認め合う学級集団を育成でき、学年職員の同僚性や協働性が高まることを明らかにする。

実践 1

学年職員へのアプローチ(同僚性・協働性)

1. 学年会議

学年主任を中心に、学年会議で生徒の実態を把握する過程で自らの学級経営をふりかえり、情報を共有し生徒の課題解決の方針を学年全体で検討し、同僚性・協働性を向上させる。

・ふだんは生徒を主観的にとらえているだけであるが、Q-UやC&Sを用いると数値で出てくるので客観性があり、学年全体の方針を決めるときに参考になった。
 ・ほかの先生からの意見を聞くと、自分のフィルターでしか見ていなかったことに気付かされ、生徒に目がいくようになった。外見でよさそうに感じても、心の内面がどうなっているかを考えてあげようという気持ちになり、時間をとって個別に話をする機会が増えた。

学級分析シート

C&S質問紙からの学級結果		分布図の傾向や観察などからとらえた学年の課題と目標
2年△組 分布図	結果にみられる学級の様子	課題 ・自分の考えをうまく伝えられない ・自分に自信がない ・相手のわかる
分布の状態	④教師から見て、結果のある子の位置 ・リーダーは、やや右上の位置に男女とも集まっている。課題のある生徒は、左下の部分に集まっている。 ⑤行動をともにするグループとその位置関係 ・リーダーの生徒の左下に集まっている。 ⑥教師から見て、分布図の位置に違和感(ズレ)を感じる子 ・普段のきちんとした取組からすると自己肯定感が低い位置にいる。 ⑦極端な位置にいる子 ・右上にやや離れた位置にいて、素直に回答していない可能性がある。	

- ①『学級分析シート』を用いて、学級の状態をつかむ。
- ②学級のよいところ、課題となる生徒の様子を話し合う。
- ③生徒の課題を解決するアイデアを、付箋に書く。
- ④アイデアの付箋を『解決策評価シート』に貼り付ける。
- ⑤取り組み優先順位を決めたり、「**自他を認め合うトレーニング**」に取り入れるエクササイズの内容を検討したりする。



解決策評価シート

取り組みやすい ← → 取り組みにくい

効果大きい ↑ ↓ 効果小さい

- 「よいところ見つけをする。クラスの雰囲気づくり」
- 周囲の友達から評価してもらおう認める集団づくり
- 生徒の運動による学校行事の活用
- チャンス相談
- 人の気持ちを考えるスキルトレーニング
- 学級委員会の活用
- 意見を書ける生徒育成のためのクラスの雰囲気づくり
- 担任の話による啓発
- 情向上カードの活用
- 今日一日の振り返り目標を動かし、練習の会でふりかえりをする
- 自然とした質問に対して自分の考えを持ち、意見を言う練習
- 自分の考えを表出する練習
- 学級の掲示物による啓発



2. 資質向上の研修

学年職員の指導力の向上を目指してスキル学習を体験し、学年として共通理解を図ることにより、学年経営への参画意識を高める。

- ①「**自他を認め合うトレーニング**」で扱うエクササイズを、事前の体験をしながら理論や技法を学ぶ。
 (傾聴の態度、リフレーミング、自己開示、班行動の協力、集団相談会)
- ②エクササイズに対して学年全体で取り組むことで、学年職員の共通理解が進み一体感が強まることにより、学年職員の意思統一を図る。

トレーニングの体験や話し合いをする中で、学年の職員同士の人柄がわかったり、得意なことが分かったりして、お互いに親密感を持つことにつながった。その後、生徒の話題が出たときに、「進路のことならA先生に聞いてみよう」とか、「人付き合いのことだからB先生に詳しいアドバイスをしてもらおう」といのように、それぞれの職員のよさを生かそうとするようになった。



実践 2

生徒へのアプローチ(互いに認め合う学級集団)

1. 自他を認め合うトレーニング

(1)-1 上手な聴き方

相手を大切に
にする

- ① 二人組になり、拒否の態度の相手に話して、感想を話し合う。
- ② 受け入れる態度の相手に話をし、二つの方法の感じ方の違いを話し合う。

『上手な聴き方』 ⇒ 相手を大切に

↑ ↓ 聞く

指示カードA

- 相手のことを見ない
- あぐらをする
- 相手から離れる
- 横を向く
- 髪や毛をいじる

指示カードB

- 足を組む、腕を組む
- 相手を見下す
- 話の途中でさえぎる
- えらそうないいづち

正しい聴きポイント

アカバのウサギ

- あいつを
- 力
- 体
- 目
- うなずく
- 最後まで
- 話を聞く



・聴き方を変えるだけで、こんなに話しやすく、話が盛り上がるなんて知らなかった。
 ・しっかりと話を聞いてみると、何か楽しくなってくる感じがする。こんな聴き方をしていれば誰とでも仲よくなれそう。

自分のよさに
気付く

(1)-2 自分の見方を変える

- ①自分が短所と感じている性格をワークシートに書き出す。
- ②ワークシートをグループで交換し、短所を長所書き出す。
- ③書き直した内容をグループ内で相手に伝える。
- ④活動の感想をグループで発表し合う。

・考え方を変えるだけで、短所が長所変わったので、ちょっと自分に自信がついた。
・友達の短所は見方を変えて見るようにしたい。自分が悪いと思っていることが、見方を変えると違ったふうに見えるてすごいと思った。

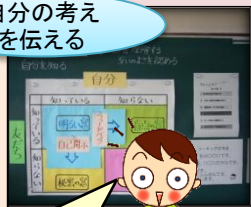


トレーニングと行事の関連①
(相手のよさを見つける)

(2) 自分を理解する

- ①自己開示をすることにより、所属場所の居心地がよくなることを知る。
- ②「さいころトークン」で自己開示を体験する。
- ③グループでふりかえりをして、活動中の感想を発表し合う。

自分の考え
を伝える



・自分の思ったことや、自分のことをしてもらったために、自分をだせるとよい仲間が見つかるなど思った。

(3) 班行動の協力の仕方を考える

- ①前時で考えた「班で協力するとは、どんなことか」について、出た意見を各班より発表する。
- ②班で協力して目標を達成する活動を行い、協力することの楽しさを体験する。
- ③どんなよい行動があったかを出し合う。
- ④東京校外学習の場面でトラブルが起きたとしたら、どんな方法で解決すればよいかを話し合い、班ごとに発表する。

協力する

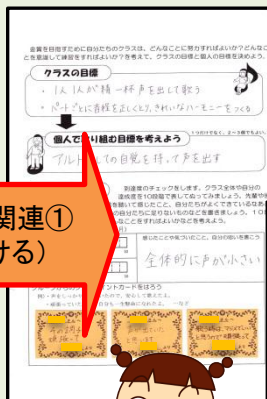
・一人一人が役割をしっかりと果たさないと、班では協力してスムーズに行動できないなと思った。もっと自分の意見をしっかりと言いたいと思う。



トレーニングと行事の関連②
(協力する気持ちを育てる)

2. 学校行事の場面での実践

(1) 合唱コンクール



目標を目指して
取り組む

仲間のよさを
認め合う

- ①学級委員が学年の合唱コンクール実行委員として、運営を担当する。
- ②話合いでクラスの目標を決め、到達するための具体的な個人目標をつくる。
- ③途中で2回ふりかえる場面をつくり、仲間のよい点をカードに書き、頑張っていることを認め合う活動をする。
- ④この学校行事で学んだことや成長したことをワークシートにまとめる。

・ふだんあまりかわらない人の、よいところが見つかった。
・みんなのいいところがたくさん見つかった。クラス全体の雰囲気もよくなり、授業へのまとまりが見られるようになった。

(2) 東京校外学習

自分の役割
を果たす

相手を
思いやる

<実際の場面で、協力できたこと>

- ・切符を取り忘れてしまった時に、班の人達でなくさめてあげたりして、心がいい気持ちになるように協力することができた。
- ・道がわからなくなったときや、電車に乗り間違えたときにみんなで冷静になって、人に道を聞いたり、「大丈夫だよ」と声をかけてくれた班員がいたので、困ったときでも安心して行動できた。

<これからの生活に生かせると思うこと>

- ・相手の気持ちを分かろうと努力し、思いやりの気持ちを持てるよう行動する。
- ・人の気持ちになって考えてみることや、人に合わせたりすることも大事だと感じた。

学年職員と生徒、両方へのアプローチ

(4) 悩みや不安に対するヒントや姿勢を考える

- ①学年集会の形式で行う**集団相談会(ワイド相談)**を開き、生徒から出された悩みや不安について、学年職員が助言者となり、アドバイスをします。
- ②アドバイスを聞いて感じたことや考えたことを個人でまとめ、グループで感想を話し合う。
- ③グループで話し合った感想を発表して、学年全体に広め、課題を共有する。

悩みを
共有する

将来への
希望を持つ



<仲間の悩みや不安を聞いた感想>

- ・自分もその子と同じ感情だったりして、お互いに悩みを聞き合えた。相手の悩みを聞いたりすると、この子はこういう気持ちでいたんだなあということを知り、相手のことがよく分かるようになる。

<自分の悩みや不安に対して今後どうするか>

- ・悩みや不安はあって当然のことなので、抱え込まず自分でその悩みや不安に対して真剣に考えることが大事だと思った。

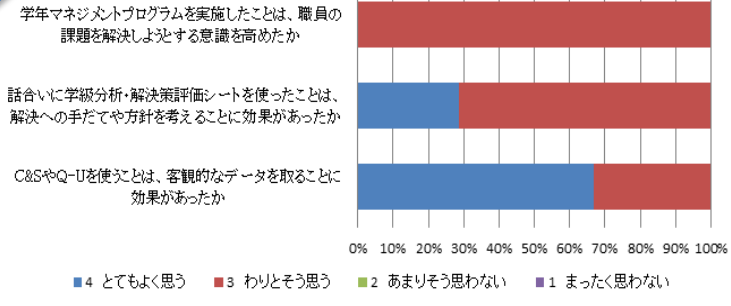
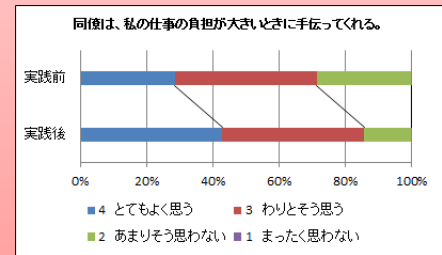
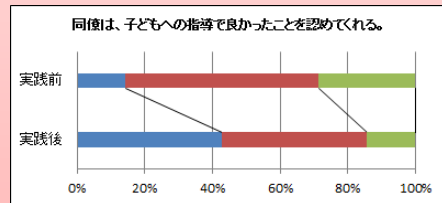
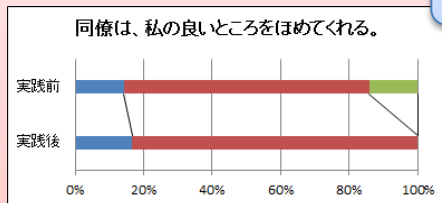
成果

実践1(学年職員へのアプローチ)の検証

同僚性と協働性にかかわる尺度質問紙の結果

職員間に学年としてのまとまりができた。

実践1に関する学年職員へのアンケート結果

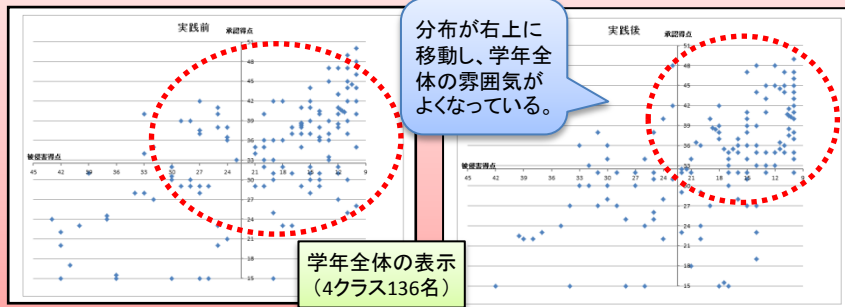


○ 学年職員間で支援をしたり、認め合う活動が増え、支え合う人間関係を深めることができ、**同僚性を高めることができた。**

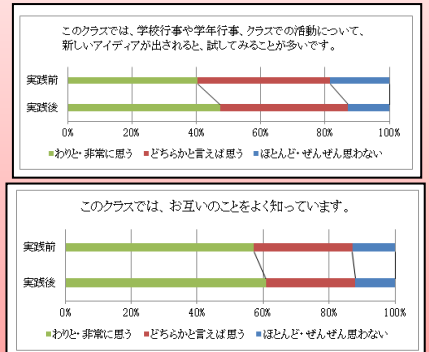
○ 客観的な資料をもとに学年会議をすることで、学年としての方針を決めることにつながり、学年職員が自分の特性を生かして問題を解決したりする場面が増えるなど、**協働性が高まったと考えられる。**

実践2(生徒へのアプローチ)の検証

「Q-U(いごちのよいクラスにするためのアンケート)」実施前と実施後の分布図比較



C&S生徒のアンケート結果より



○ Q-Uの結果からは、学年全体の平均数値では、縦軸の承認得点が0.1ポイント上がり、被害者得点が0.6ポイント下がり、分布図の点の位置が全体的に右上に移動しており、**学年全体の雰囲気が向上していることが分かる。**

○ C&Sの結果から、自分に自信を持って新しいことに取り組もうとしたり、お互いのことを分かろうとしたりする気持ちが高まっていた。担任からは、他人に厳しかった生徒が優しい対応をするように変化が見られたというコメントがあり、**互いに認め合う学級集団に向かい始めていると考えられる。**

課題

- 継続して記入しやすいシートとなるように質問項目のポイントを絞るなど工夫し、短時間でも十分活用できるシートを作成する。
- 生徒の課題を十分に把握して、学年の発達段階に相応する基本的なソーシャルスキルを身に付けられるように道徳や学級活動などで取り入れる。

問い合わせ先

群馬県総合教育センター
担当係：生徒指導相談係

0270-26-9217(直通)